



終了後の一斉清掃での連協会所属連のキビキビした動きは清々しいし、彼らが翌朝早くから周辺街路を清掃する姿も恒例になった。数千人もの踊り手の喉を潤そうと氷入りの水を懸命に配り続ける自治会婦人部の皆さんや、くみ置き式の仮設トイレを少しでも快適に使ってもらいたいと、行列の合間を縫って清掃をしてくださる方々もいる。

商店街が客寄せで始めたものだが、次第に虜になる者が現れ、その情熱が伝播し、拡大を続けた。その過程では、阿波おどりの実施母体の組織づくりに活躍した人、スポンサー集めに手腕を発揮した人など、多くの協力者を得られたのは、阿波おどりを自分たちだけのものと主導的な立場を独占せず、広く門戸を開いた商店街の先輩たちの見識といえる。今日の隆盛につながった真の要因は、地域をひとつに結ぶものへの期待と自らが支えていると思う自負なのではなかろうか。



本場を遠く離れ、生活環境や風土の違う東京の地で阿波おどりを根付かせるためには、本場徳島の支援が必要不可欠であった。高円寺阿波おどりが盛んになればなるほど、本場徳島は光彩を増す。東京の大観衆は、高円寺の先に徳島を見ているのである。そして高円寺で阿波おどりが始まって以来、東京周辺では30カ所以上の阿波踊り開催地ができた。

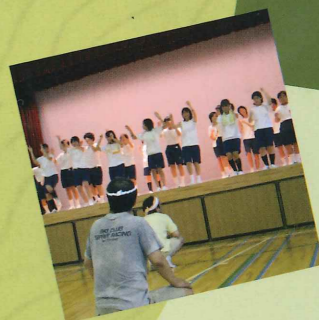
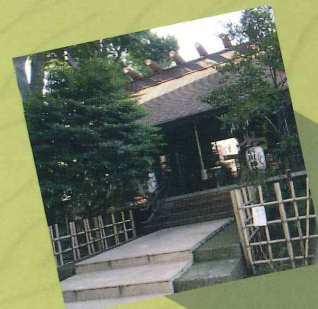
東京高円寺阿波おどり振興協会は、阿波おどりを高円寺の地域文化として全国に発信することを目標のひとつとしている。そして「安全・安心・環境に配慮した」運営のためには、より大勢な人の協力が必要になる。阿波おどりへの参加といえ、今までは踊りたい人がほとんどだったが、今後はスタッフとして運営を手伝いたい人も出てくるだろう。そして彼らをも巻き込んで活動することができたとき、高円寺阿波おどりの新しい幕が開く。

この街は、記憶に残るような歴史的建造物や豊かな自然とは無縁である。だが、阿波おどりを育ててきた街には来街者を受け入れる暖かさと結束力がある。阿波おどりは地域をひとつに結ぶのにとどまらず、地域と人、人と人をも結ぶ絆となっている。この絆がある限り高円寺は阿波おどりに携わる人、愛する人にとって「ふるさと」であり続けるだろう。

「阿波おどりのある街」として

遥か遠い徳島で生まれた阿波踊りが、高円寺の街で新たな芽を吹いてはや50年。街と人が阿波おどりを育て、阿波おどりがこの街と人を育ててきました。

よりよい街づくりと商店街活性化のために、今、私たちができることを考え、そのひとつひとつに取り組みます。



東京高円寺阿波おどり ブランドの確立を目指して

登録商標「東京高円寺阿波おどり」

この度「東京高円寺阿波おどり」の名称が商標として認可されました。高円寺の地域文化である阿波おどりを大切に思い、魅力ある企画を提供させていただき一方、地元商業振興の発展を願っての措置です。地域の方々がこの商標を営業活動のなかでご活用いただくことを願い、正式認定商品はパンフレット掲載、特設ブースでの販売なども検討中です。

商標の無断使用については、商標活用にご理解をいただいている個店の利益保護と地元文化の発展、継承の観点から、法的処置も含め厳しく対応いたします。

商標登録したロゴは図形として認可されています。たとえデザインや書体などが異なっても「東京阿波おどり」、「高円寺阿波おどり」、「高円寺阿波踊り」などは類似するとされ、第三者に錯誤を抱かせるとして商標権に抵触することとなります。

ご当地キティでアプローチ

ご来場の方から「阿波おどりの土産物はないのか」、「記念品はないのか」とよく問い合わせがありました。商店街で始まったにも関わらず、関連商品が全くありませんでした。日ごろ協力を頂いている地元商店が取り扱うことで、いくらかでも売上に貢献できれば、そして来街の皆さまに喜んでいただけるものをもと模索し、幅広い世代に人気のあるハローキティの高円寺限定・阿波おどりバージョンの根付、ボールペンを作製、販売することになりました。各商店会を通じて販売店を募集したところ、思いのほかの人気で根付は完売。2年目にあたる平成18(2006)年も新しいデザインのもので販売中です。今後登録商標「東京高円寺阿波おどり」を利用した記念商品の種類を徐々に増やし、地元商店やお客様に喜んでいただける事業に繋がりたいと考えています。



阿波おどりと街づくり

杉並区を代表してお祝い申し上げます。

高円寺阿波おどりが、ご盛況の中、50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

1957年(昭和32年)に始まり「高円寺ばか踊り」は、いまや「高円寺阿波おどり」として日本中に知られる、夏の終わりを彩る代表的なイベントに発展しました。そして、東京で暮らすたくさんの方々に、ふるさとのあたたかさを感じさせてくれます。

また、高円寺阿波おどりは、都会の中ではとすれば忘れがちなふるさと意識や、地域の協力・連帯の大切さなどを思い起こさせてくれます。

これもひとえに、事業にかかわってこられた関係者の方々の長年にわたるご努力や、地元住民の皆様のご理解、ご支援の賜と、深く敬意を表します。

今後、高円寺阿波おどりがますます充実し、元気と魅力にあふれる街となりますよう、並びにNPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会の皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。



杉並区長 山田 宏

高円寺の街に阿波おどりが誕生して50年。地元の皆さんが育てあげた賜と、お祝い申し上げます。

私が高円寺駅長として赴任してきたのは、駅の改良工事が始まる2004年(平成16年)3月でした。まだ、北口の広場も広く、そこでの阿波おどりを初めて観させていただいたとき、若い方、年配の方、男性の方、女性の方、全ての方の踊りに魂があり、その立ち姿に凛々しさを感じました。漢字一字で表すとすれば、「凛(りん)」です。

駅の改良工事におきましては、高円寺の皆さまの阿波おどりへの「想い」を、構内の至るところで表現できたことに感謝いたします。

高円寺阿波おどりの終了時刻は決まっております、家路につかれる観客の皆さんがいっせいに駅を利用なさいます。これをふまえ、今後も中央線の電車時刻がより安心・安全なものとなるよう、駅社員一同善処し、「阿波踊り」という文化の色づく「高円寺駅」にしていきますので、今後ともご支援のほどよろしくお祈り申し上げます。

高円寺駅前駅長(両国駅長) 山口一男



阿波おどりと街づくり

高円寺阿波おどりが、記念すべき50回を迎えられましたこと、また、立派な記念誌を発行されますこと、心よりお祝い申し上げます。

隣町阿佐谷の七夕まつりに刺激を受け、高円寺にも溢れるほど大勢の人々を集めたいとの願いから始められたと、伺っております。

氷川神社の祭礼に合わせた日程から、8月の終わりの土日に移行され、前半の阿佐谷七夕まつりと共に、東京の夏に欠かせぬ二大イベントといわれておりますが、動きと音のある高円寺阿波おどりの方が、今日のテレビ時代にピッタリ合った祭りのようにも見えます。

時代が大きく変化し、地域社会の危機が叫ばれている今日、杉並の文化・伝統を創り続け、多くの人々に夢と希望が与えられますよう祈念し、隣街阿佐谷より心を込めて応援させていただきます。

阿佐谷商店街振興組合 前理事長 **小川勝久**



高円寺阿波おどり50周年おめでとうございます。1957年(昭和32年)は、大祭日を8月27日28日に変更(従来は9月17日18日)した記念すべき年でした。そして私も、この年、神職に拝命され、そのスタートの年に、商盛会(現パル)青年部の申し出により、**氷川神社大祭奉納おどりが**始まりました。境内から商店街へ繰り出した参拝客や沿道の人々を大いに驚かしたイベントで、立ち会った私は、高円寺阿波おどり成功の陰の協力者の一人と、自負しております。高円寺阿波おどりは年々盛大になり、西の徳島、東の高円寺といわれるほど、全国的に知名度をあげています。デーゲームは氷川神社の祭礼、ナイターは阿波おどりと、ドッキングして高円寺を盛り上げてまいりましたが、50年目、事情により、これらを別々に開催することになってしまいました。しかしながら、高円寺阿波おどり発足に立ち会った地元の神社として益々の発展を祈念し、今後共末永いお付き合いをお願いします。

氷川神社 宮司 **山本雅道**



ふるさと高円寺を愛し、高円寺の中学校で学ぶことを誇りとする生徒を育てたいと思っています。地域を愛する心を育むことは、日本の文化や伝統を正しく理解し、国際社会の一員としての自覚を高めることとなります。

2002年(平成14年)から、地域の方々にご協力いただき、阿波踊りを学び、2004年(平成16年)からは、3年生がリーダーとなって**全校で阿波踊りの体験学習**に取り組んでいます。

集団で練習し、踊ることは、集団の一員としての自覚を高め、規律を守る大切さを学ぶ機会になります。舞台上で発表したり、作文に感想をまとめたりすることは、表現力を学ぶ機会にもなります。阿波踊りの体験学習では、生徒たちの社会性を育み、生きる力を培うことができます。

地域の伝統である高円寺阿波おどりが、ますます発展しますことをお祈り申し上げます。

杉並区立高円寺中学校 前校長(向陽中学校校長)
岩谷俊行



この度、東京高円寺阿波おどりが50周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。当初「ばか踊り」として始まったこの祭りが、半世紀を経て、東京の夏を鮮やかに彩る祭りにまで発展したことは、誰もが驚きと賞賛に値することだと思っているでしょう。阿波おどりの足取りのごとく、前を見据えてゆっくりしっかり大地を踏みしめながら歩んだ一里塚。ここまで大きな祭りとなるまでには、さまざまなことがあったと想像されます。私はそのひとつのできごとであろう、**NPO法人設立**のお手伝いをさせていただきました。いや、手伝っているつもりながら、思えば私も高円寺の人々の熱意に踊らされていたのかもしれない。

次なる50年、「地域」と「踊り手」と「観客」が三者一体として支えあい、大樹のごとく繁栄することを願っております。

(財)東京都中小企業振興公社 **谷口任司**



高円寺阿波おどりが大好き!
だからこそ、あえていいたい。ちょっと苦々しいこと。

高円寺の踊り手に接すれば
接するほど、幻滅してしまう。

「まずはマナーを大事にして欲しい。外部出演の会場や控室でのだらしない態度はとも見苦しいです。あいさつをしても、返してもらいだけない。思い上がっているのですか? 踊りの講師派遣をお願いしたとき、連一同で身支度を整えて待っていると、現れたのは私服をだらしく着崩したあんちゃん。指導がきちんとしていれればと思ったけれど、その実、身となる指導もいただけませんでした。われわれは未熟ながらも「踊りは人格の表れ」、「生き方が踊りに出る」と連員に教え、高円寺の阿波おどりに深い憧れと敬意をもっていただけに非常に残念に思いました。心血

をそそいで来た先輩方の顔に泥を塗るようなことをしてはいけません。また本番では東日本の阿波おどりのメッカにふさわしくない連をいくつも見かけます。参加費を払えばどんな連でもOKでは格が下がります。ましてや協賛席もあるのではないですか。自分の本拠地・高円寺をもっと大切にしたい。そして高円寺の地位を上げてブランド化してください。高円寺阿波おどりに参加することは、関東で阿波踊りに携わる者にとって夢であり目標でもあるんです!」

*後発地域で連を組んでいる方にご無理をいって、日ごろ感じていることを話していただきました。

おじいちゃん、おばあちゃんからちびっ子まで!
老化と成長にも効果あり! 阿波踊りで健康づくり

早稲田大学スポーツ科学部・福永哲夫教授らが平成17(2005)年5月10日に京都で開催された日本抗加齢医学会で、伝統舞踊は足腰を丈夫にし、とくに阿波踊りではその効果が高いと発表した。

筋肉はふつうの生活で10%ほど、歩く動作でも30%ほどしか使われていなく、筋肉トレーニングでは筋肉使用率が30~40%のときにその効果が出るとされている。

阿波踊りを踊る踊り手の背中、腕の上下、ふくらはぎ、腿の筋肉使用率を計ると常に約30~40%だった。つまり阿波踊りには筋肉トレーニングと同等の、筋肉の衰えを緩やかにする効果があると科学的に証明された。

なお発育途中の子どもの場合、阿波踊りは筋力のピークをより高める効果がある。丁寧な正しい練習を定期的に長く続けることが、もっとも効果が出るようだ。



佐藤 恒夫

(東京阿波おどり振興協会3代目会長)
※困難な時期に会長に就任。賛助者席の導入、NPO 法人化の道筋をつける。

「お願いします」「ありがとうございます」の50年。皆さんのおかげで、今日まで歩むことができました。周囲への感謝と50年の誇りを胸に着実に堂々と進んで行ってください。

岩田 美和

(杉並区産業振興課)

高円寺阿波おどり50周年おめでとうございます。

私は、さざんか連の踊る阿呆でもありますが、昨年から高円寺の裏方もしています。たくさんの方の縁の下の力持ちに感謝しています。

大須賀 丈夫

(高円寺北中央自治会会長)

振り返ると、現在のジーンズメイトの広場での、阿波おどり浴衣姿の青年部が踊り込んだのを機会に、昭和42年銀座連として参加、演舞場も拡大。NPO 法人化と共に無事故を誇る阿波おどりの一層の発展をお祈りします。

齋木 喜久夫

(緑ヶ丘町会会長)

祝創立50周年 歴代会長並に役員に対し敬意を表し、今後共益々の発展を、心より祈念いたします。願わくは、外部参加連が多いので…。理事会にて検討をお願いいたします。

鈴木 俊男

(高円寺パル商盛会会長)

早いもので50年。パル商店街で始まったばかり踊りが、これほどまでの大きな行事になるとは、商売にならなくとも、どんなに大変でもわが街は頑張ります。地域の皆様、観客の皆様、踊り手の皆様と一緒に高円寺の阿波おどり文化を創っていきましょう。

阿部 孝喜

(高円寺中央通り商店会会長)

五十周年おめでとうございます。高円寺中の町会、商店会の協力で運営され、毎年大勢の見物のお客様がおいでになります。これからも協力をおしらずに、行きたいと思います。

江川 雅志

(杉並区清掃事務所方南支所作業係長)

高円寺阿波おどり振興協会の皆様、50周年おめでとうございます。高円寺阿波おどりは120万人が集う大イベントですが、ごみの分別や減量に地道に取り組んでいらっしゃる、まさに人と環境にやさしい素敵なイベントだと思います。今後も環境先進都市すぎなみの誇れるイベントとして100年、200年と続けてください。

河野 庄次郎

(梅里一丁目町会会長)

10年一昔の時代から、一年一昔の時代が変わってしまった今日、地域に生まれ育つこれからの人々に、心のふるさと伝統文化として、益々発展してもらいたいと強く願っています。

杉原 英男

(高円寺銀座商店会協同組合元理事長)

50周年を心嬉しくお祝い申し上げます。ここまで育て上げてきた先人たちのことが思い出されます。竹は節が出来て一段と逞しく成長します。更なる発展を祈念申し上げます。

松田 長門

(元東京阿波おどり振興協会事務局長)

祝50周年。高円寺中学の生徒を連として踊らせて欲しいものです。観衆と地域、関係機関の協力を一層推進してください。副会長、事務局長を17年務めましたが一昨年からの財務の黒字化に感謝の気持ちでいっぱいです。大会中の路上出店、ゴミの山なまだまだ問題山積ですが、感動と風格と安全をモットーに前進してください。

志田 昭三

(高南自治会会長)

50周年おめでとうございます。近年あまりにも大勢の観客が見え過ぎて、私共は一部分の会場しか見ることが出来ないの、ばかおどりといわれたところが懐かしく思います。

西川 道雄

(氷川町会会長)

どちらから、と聞かれたときに、高円寺と答えると、ああ、阿波おどりの街ですねといわれるくらいに、知名度が上がった我が街高円寺。皆で、神輿をかついでいきたいと思っています。

コラム参

声

50年を支えてくれた自治会、商店街の方々から、メッセージをいただきました。



ドイツにいてもよみがえるお囃子の音

久保田 由希 (ドイツ在住・ライター)

初めて高円寺の阿波おどりを見たとき、知らないうちに泣き出していた。連のみんなが心の底から楽しそうに、プロフェッショナルで、心を打たれたのだ。こんなに楽しいお祭りなのに泣いているのはおかしいと、ひそかに涙をぬぐったことを今でもよく憶えている。あれから月日は数十年経って、いま私はドイツにいる。ここにも、阿波おどりを見ない8月はない。友人の携帯からリアルタイムで送られてくる画像を見ると、瞬時にお囃子の音がよみがえる。今年も8月がやってくる。ドイツにいても「ヤットサー、ヤットヤットー！」

この街に住んで20年を越えました。その間に結婚、出産し、今や子どもが連で踊り始めて5年目。家族に踊る阿呆と見る阿呆がいるわけです。眠らない街、高円寺。50回目に参加出来ることを嬉しく思います。(東京都/どれみ)



阿波おどってこんなにすごいのか!

押山 豊 (高円寺・居酒屋「どん兵衛」勤務)

私が阿波おどりを知ったのは23年前、高円寺の居酒屋「どん兵衛」に勤めるようになってからです。阿波おどりの3日間にお客様を迎える準備の仕込みを始め、いざ店がオープンとなったとき、街全体が阿波おどり一色に染まります。まるで小学校の演芸会のように、何が始まるのかドキドキしたのを覚えています。実際は店が始まると阿波おどりのことは忘れてしまうほど忙しく、オーダーをとって料理をつくることに追われ、それが連日続きます。すべてが終わると「阿波おどりにってこんなにすごいのか」と感じました。今は連員さん達とも交流をもち、年間通して阿波おどりに対する情熱を伺います。高円寺の今があるのも、この方々のおかげ。街も店も人も一体化する素晴らしさを、皆さまに感じてもらいたい。また連員の方々は、これから街、店、お客さまたちに、そのパワーをいつまでも伝えて続けてください。

コラム四

大好き!高円寺阿波おどり

おめでとう!高円寺50周年記念!
街や観客の方々から、嬉しいお祝いメッセージが届きました。祝福の言葉は、次のステージへのはなむけの言葉です。



© 田中 英樹

高円寺で暮らし始めて今年で10年目に突入しました。大好きな高円寺の街に、なくてはならないのが阿波おどりです。耳が痛くなるほどの太鼓や鉦の音。動きの揃った女踊りに、笑顔を絶やさない男踊りなど夏の風物詩と呼んでよいものだと思います。今後もずっと高円寺を盛り上げて欲しいと思います。(高円寺/トミー)

踊り始めて10年ぐらいいです。お囃子の縮太鼓から始め、今は男踊りの提灯に夢中です。私は耳が不自由ですが、嫌なことがあっても踊っていることがあつても、地元でも踊りました。徳島の東京・高円寺が大好きです。(東京都/パル)



まさしく私の「パワーの源」です。

綾部 康子 (杉並区成田東在住/財)日本国際協力センター)

20数年前に高円寺界隈に住み始め、そこで阿波おどりに出会ってからのというもの、何を差し置いても毎年8月下旬の3日間は高円寺ルック商店街にかけつけます。高円寺阿波おどりの魅力はいろいろありますが、まずは老若男女が参加できる、開放的な精神がうたわれている阿波おどり自身が心地よいこと。またルック商店街では踊り手に触れられそうな距離で、一体感を味わうことができること。それに沿道のお店で買ったビールを片手に自分のご最良の連がいつ来るかとわくわくしながら待っている時間でしょうか? 姉妹関係にある本場徳島の連が、特別参加していることも。本場の阿波踊りを目にする機会がめったにないので、このチャンスは見逃せません。そして、なんといつても踊り手たちの満点の笑顔とユニークたつぷりな表情に元気づけられ、疲れも吹き飛びます。

第50回開催おめでとうございます。多くの方を魅了する高円寺阿波おどりは、主催者、実行委員の皆さまの地道な努力の賜ものと思います。70回、100回に向け、今後も頑張ってください!(東京都/AXEL)

知人の参加をきっかけに阿波おどりを始め、3年目になりました。50周年、おめでとうございます。区切りの年にふさわしい、すばらしい大会になることを期待しています。(東京都/ちゃんぐ)



ビバ50回!!

いざまん (高円寺の女)著者)

高円寺阿波おどりの3日間は、そこに参加するおにいちゃんも、おねえちゃんも、じっちゃんも、ばっちゃんも、みんな二枚目&べっぴんになるからホレや

すいひとは気をつけて!!日ごろウップンたまってるひとは、じめつとしてないで踊って晴らせ~!!
ちなみに高円寺の女、あしなツコは南演舞場で豚おっぱいという名のやきとりを食べながら「みるあほう」。ハロウキティ連ができたなら参加しようかな。